

日本電気株式会社

OpenMeisterEnterprise® /EF
システム基盤

Ver.6.6

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは、『OpenMeisterEnterprise®(以下 OME)／EF システム基盤 Ver.6.6』をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。本書は、お買い上げいただいたパッケージの内容の確認、セットアップの内容を中心に構成されています。OME をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft, Windows, MS は米国 Microsoft 社の登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation の登録商標です。

その他、会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

ごあいさつ	1
目次.....	2
第1章 セットアップの準備	4
第2章 セットアップの方法	5
第3章 アンインストールの方法	10
第4章 OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 の変更履歴	11
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.6での変更点	11
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.5での変更点	12
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.4での変更点	13
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.21での変更点	15
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.3での変更点	16
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.2での変更点	18
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.1での変更点	20
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.0での変更点	21
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.5.0での変更点	22
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.9での変更点	24
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.8での変更点	25
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.7での変更点	26
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.6での変更点	27
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.5での変更点	28
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.4での変更点	30
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.3aでの変更点	32
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.3での変更点	34
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.2bでの変更点	36
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.2aでの変更点	37
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.2での変更点	38
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.1での変更点	41
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.0aでの変更点	44
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.0での変更点	45
OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.3.2での変更点	47
OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.3.1での変更点	48
OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.3.0での変更点	49
OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.2.2bでの変更点	50

OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.2.2aでの変更点.....	51
---	----

第 1 章 セットアップの準備

OME/EF システム基盤をご使用になるためには、まず、お手持ちのコンピュータに OME/EF システム基盤をセットアップしていただく必要があります。セットアップとは、製品ファイルを展開し、閲覧・実行できる形式にして固定ディスクにコピーすることです。

OME/EF システム基盤に関連するソフトウェアのセットアップ方法と環境については、それぞれのソフトウェアの説明書等を参照下さい。

・ OME/EF システム基盤のセットアップ環境

OME/EF システム基盤をセットアップするためには、次の環境が必要です。

1) ハードウェア

- ・ メモリ : OS と各種ミドルウェアの稼働に必要なメモリ容量(4GB 以上推奨)
- ・ 固定ディスクの空き容量 : 200MB 以上

2) ソフトウェア

- ・ Windows Server 2022
- ・ Edge(Chromium ベース版)
- ・ Microsoft Office 365

第2章 セットアップの方法

製品ファイルを展開し、任意の場所にコピーします。

以下は、展開後の PP フォルダの配下にある OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.6 のフォルダ構成の概要を示します。

OME	
└EF	
└FI	
└DOC	
└┬設計	(各パターンの AP 作成手順書)
└Html	(HTML ドキュメント)
└┬image	
└JavaDoc	(OME の API リファレンス)
└Lib	
└┬Deploy	
└┬┬DataSelect	
└Ome.jar	(OME のフレームワークモジュール)
└OmeServlet.jar	(OME のフレームワークモジュール(サーブレット))
└OmeRestServlet.jar	(OME のフレームワークモジュール(REST 用サーブレット))
└OmeGenerator.jar	(OME ジェネレータのモジュール)
└OmeTemplate.jar	(EJB 版・LW 版の IE 環境用ジェネレータテンプレート)
└OmeTemplateEd.jar	(EJB 版・LW 版の Edge 環境用ジェネレータテンプレート)
└OmeTemplate-DAO.jar	(EJB 版・LW 版の DAO・表示言語切り替え部品利用の IE 環境用のジェネレータテンプレート)
└Sample	(OME に付属しているサンプル)
└┬Console	(OME に付属しているブレイクバッチパターンのサンプル)
└┬┬Bat	
└┬┬Java	
└┬┬┬Class	(ブレイクバッチパターンのサンプルのクラス)
└┬┬┬Source	(ブレイクバッチパターンのサンプルの Java ソース)
└┬┬Properties	
└EJB	(EJB を利用したサンプル(Edge 環境用))
└┬DefinitionFiles	(EJB を利用したサンプルのスクリーンフロー定義ファイル, DAO 定義ファイル, リクエストプラグイン定義ファイル及びレスポンス XML 定義ファイル)
└┬Files	(ダウンロードパターン・アップロードパターン用ファイル)
└┬Java	
└┬┬Class	(EJB を利用したサンプルのクラス)
└┬┬Deploy	
└┬┬┬ejbproto	
└┬┬┬OmeEJBSample.jar	(EJB を利用したサンプルのモジュール)
└┬┬┬Web0TX	
└┬┬┬┬ejbproto	
└┬┬┬┬OmeEJBSample.jar	(Web0TX 用の EJB を利用したサンプルのモジュール)
└┬┬Source	(EJB を利用したサンプルの Java ソース)
└┬Properties	(EJB を利用したサンプルのプロパティファイル)
└┬┬Web0TX	(Web0TX 用の EJB を利用したサンプルの DD ファイル)
└┬WebImage	
└┬┬WebLogic	
└┬┬┬OmeEJBProto	(EJB を利用したサンプルの JSP, HTML, INC ファイル)
└┬┬┬WEB-INF	(EJB を利用したサンプルの web.xml)

classes	(EJB を利用したサンプルのホーム・リモートインタフェース)
tlds	(EJB を利用したサンプルの Taglib の tld ファイル)
WebOTX	
WEB-INF	
XML	(WebOTX 用の EJB を利用したサンプルの web.xml)
Lightweight	(EJB を利用したサンプルを生成するジェネレータ定義ファイル)
DefinitionFiles	(非 EJB のサンプル (Edge 環境用))
WebOTX	
Files	(WebOTX 用の非 EJB を利用したサンプルの スクリーンフロー定義ファイル及び DAO 定義ファイル)
Java	
Class	
WebOTX	(WebOTX 用の非 EJB のサンプルのクラス)
Source	
WebOTX	(WebOTX 用の非 EJB のサンプルの Java ソース)
Properties	
WebOTX	(WebOTX 用の非 EJB のサンプルのプロパティファイル)
WebImage	
WebOTX	
OmeLWProto	(WebOTX 用の非 EJB のサンプルの JSP, HTML, INC ファイル)
WEB-INF	(WebOTX 用の非 EJB のサンプルの web.xml)
tlds	(WebOTX 用の非 EJB のサンプルの Taglib の tld ファイル)
XML	
WebOTX	(WebOTX 用の非 EJB のサンプルを生成する ジェネレータ定義ファイル)
Schema	(OME に付属しているサンプルのスキーマ)
Screen	(ジェネレータ確認画面で使用する画像とスタイルシート)
gif	
Style	
Skeleton	(部品のスケルトン)
JSP	
NarrowDown	
DropDownList	(EJB 版・LW 版の絞り込みウインドウのスケルトン)
Src	(フレームワークの Java ソース)
Tools	
OmIpCheck.jar	(実行ライセンス発行申請用の IP アドレスチェッカー)
応用事例	
BPEL 連携	
Sample	
BPEL	(JDeveloper の設定ファイル及び BPEL プロセスのソースファイル)
Client	(クライアントサンプルのモジュール)
JavaFX	(JavaFX で記述されたクライアントサンプルのソース)
Swing	(Swing で記述されたクライアントサンプルのソース)
WebService	(BPEL と連携している Web サービスアプリケーションサンプル)
Java	
Class	(Web サービスのサンプルのクラス)
Deploy	(Web サービスのサンプルのモジュール)
Source	(Web サービスのサンプルのソース)
JWS DP	
OmeWsSampleBPEL.ear	(BPEL と連携している Web サービスを利用した サンプルの EAR)
Properties	(Web サービスアプリケーションサンプルを作成する為の build.xml)
WebImage	

	Wsa01	(Web サービスのサンプル Wsa01 のモジュール)
	Wsa02	(Web サービスのサンプル Wsa02 のモジュール)
	Wsb01	(Web サービスのサンプル Wsb01 のモジュール)
	Wsb02	(Web サービスのサンプル Wsb02 のモジュール)
	Wsc01	(Web サービスのサンプル Wsc01 のモジュール)
	Wsc02	(Web サービスのサンプル Wsc02 のモジュール)
	Properties	(Web サービスのサンプルのプロパティファイル)
	解説文書	(BPEL と連携している Web サービスのサンプルの解説文書)
	GdFrame 連携	
	Lib	(OME と GdFrame を連携するためのクラスライブラリ)
	Sample	(OME と GdFrame を連携するサンプル)
	Src	(OME と GdFrame を連携するクラスのソースファイル)
	解説文書	(GdFrame 連携の説明書)
	JSP 分離	
	Lib	(OME の JSP をデザイン部とスクリプト部に分けて生成するテンプレートファイルと、それらを合成するツール)
	解説文書	(JSP 分離の説明書)
	OmeTraceLogViewer	(トレースログビューワのツール)
	Style	
	WebOTX	(WebOTX 用のトレースログビューワのツール)
	Style	
	RIA	
	EJB	
	OmeRIAProto	(EJB・RIA を利用したサンプルの JSP, HTML, INC ファイル)
	WEB-INF	(EJB・RIA を利用したサンプルの web.xml)
	classes	(EJB・RIA を利用したサンプルのホーム・リモートインタフェース)
	WebOTX	
	OmeRIAProto	(WebOTX 用の EJB・RIA を利用したサンプルの JSP, HTML, INC ファイル)
	WEB-INF	(WebOTX 用の EJB・RIA を利用したサンプルの web.xml)
	Flash	(OME に付属している Flash クライアントサンプルのソース)
	EJB	
	Source	(OME の EJB を利用したサンプルと連携した Flash サンプルのソース)
	Struts	
	Source	(OME の Struts を利用したサンプルと連携した Flash サンプルのソース)
	Flex	
	EJB	(OME EJB 版と連携する Flex クライアントサンプルのソース)
	OmeEJBProto	
	Struts	(OME Struts 版と連携する Flex クライアントサンプルのソース)
	OmeStProto	
	解説文書	(OME に付属している Flex クライアントサンプルの解説文書)
	Lightweight	
	WebOTX	
	OmeRIAProto	(WebOTX 用の非 EJB の RIA のサンプルの JSP, HTML, INC ファイル)
	WEB-INF	(WebOTX 用の非 EJB の RIA のサンプルの web.xml)
	classes	(WebOTX 用の非 EJB の RIA のサンプルのクラス)
	解説文書	(RIA のサンプルインストール・環境設定ガイド)
	Tutorial	(チュートリアル)
	UI カスタマイズ	
	Lib	(UI カスタマイズ機能を利用したアプリケーションを生成するジェネレータテンプレート)
	XML	
	EJB	(UI カスタマイズ機能を利用したサンプルのジェネレータ定義ファイル (EJB 用))
	Lightweight	(UI カスタマイズ機能を利用したサンプルのジェネレータ定義ファイル (Lightweight 用))

└─ 解説文書	(UI カスタマイズ AP 作成ガイド)
└─ WebService	(Web サービス部品関連 (WL81 専用版))
└─ old	
└─ Sample	(Web サービス部品を利用したサンプル (WL81 専用版))
└─ AntTaskDir	(サンプルの Web サービスジェネレータの環境 (WL81 専用版))
└─ Server	
└─ Ws01E01WebService	
└─ Ws02E01WebService	
└─ Ws03E01WebService	
└─ Ws04E01WebService	
└─ Java	
└─ Deploy	
└─ ejbproto	
└─ OmWsSample. jar	(Web サービス用 EJB のサンプルモジュール (WL81 専用版))
└─ Source	
└─ Lib	(プロジェクト共通のライブラリ (WL81 専用版))
└─ Properties	(OME プロパティ (WL81 専用版))
└─ Src	(Web サービス部品を利用したサンプルのソース (WL81 専用版))
└─ WebServiceEar	(Web サービス部品を利用したサンプルの EAR (WL81 専用版))
└─ XML	(Web サービス部品を利用したサンプルの ジェネレータ定義ファイル (WL81 専用版))
└─ Tool	
└─ AntTaskDir	(Web サービスジェネレータのスケルトン (WL81 専用版))
└─ 応用事例	(Web サービス部品関連ドキュメント (WL81 専用版))
└─ Sample	
└─ Java	
└─ Class	(Web サービスのサンプルのクラス)
└─ Deploy	
└─ Source	(Web サービスのサンプルの Java ソース)
└─ JWSDP	
└─ Properties	(Web サービスのサンプルを作成する為の build.xml)
└─ WebImage	
└─ Gw01	(Web サービスのサンプル Gw01 のモジュール)
└─ Gw02	(Web サービスのサンプル Gw02 のモジュール)
└─ Screen	(Web サービスのサンプルのジェネレータ確認画面)
└─ OmeWsSample. ear	(Web サービスを利用したサンプルの EAR)
└─ Properties	(Web サービスのサンプルのプロパティファイル)
└─ XML	(Web サービスのサンプルを生成するジェネレータ定義ファイル)
└─ 解説文書	(AP 作成手順書、OME サンプルインストール・環境設定ガイド)
└─ オウンコードカウンター	(オウンコードカウンターのモジュール)
└─ ログファイル出力	(ログファイル出力)
└─ doc	(ログファイル出力使用説明書)
└─ 画面制御	
└─ Sample	
└─ EJB	
└─ WebImage	
└─ WebLogic-OAS	
└─ OmeEJBProto	(EJB を利用した画面制御を付加したサンプル)
└─ WebOTX	
└─ OmeEJBProto	(WebOTX 用の EJB を利用した画面制御を付加したサンプル)
└─ js	(画面制御を行う JavaScript)
└─ Lightweight	
└─ WebImage	
└─ JRun	
└─ OmeLWProto	(非 EJB を利用した画面制御を付加したサンプル)
└─ WebOTX	
└─ OmeLWProto	(WebOTX 用の非 EJB を利用した画面制御を付加したサンプル)
└─ Style	(画面制御を行うスタイルシート)

<ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> <ul style="list-style-type: none"> WebOTX <ul style="list-style-type: none"> 解説文書 <ul style="list-style-type: none"> 帳票ソリューション <ul style="list-style-type: none"> Sample <ul style="list-style-type: none"> Java <ul style="list-style-type: none"> Source 解説文書 解説文書 	<p>(WebOTX 用の画面制御を行うスタイルシート) (画面制御サンプル説明書)</p> <p>(OME と帳票ソリューションを連携するサンプル)</p> <p>(帳票ソリューション連携の説明書) (OME サンプルインストール・環境設定ガイド, ジェネレータ定義ファイル作成手順書等)</p>
---	---

第3章 アンインストールの方法

OME／EF システム基盤をアンインストールする場合は、OME／EF システム基盤をコピーしたフォルダを削除してください。

第 4 章 OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 の変更履歴

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.6 での変更点

(1) 動作確認環境の追加

Ver.6.5 の動作確認環境に加えて Ver.6.6 では以下の環境の組み合わせを追加。

[EJB 版/LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2022 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V11.2
サーバ OS	Windows Server 2022
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 17.0.9

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 11 version 22H2
Web ブラウザ	Edge(Chromium ベース版) / Edge(Chromium ベース版)IE モード
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ (JavaSE, JavaEE)	Oracle JDK 8 u331、Java EE 7

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.5 での変更点

(1) フレームワークライブラリを Oracle JDK 8, JavaEE 7 でビルド

全環境で使用するフレームワークライブラリを長期サポートバージョンである Oracle JDK 8, JavaEE7 でビルド

(2) REST 用サーブレットクラスを分離

REST 用サーブレットクラスを OmeRestServlet.jar に分離

(3) 動作確認環境の変更

動作確認環境の組み合わせは以下の通り。

[EJB 版]

Web サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
AP サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
サーバ OS	Windows Server 2022
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 8 u331, Oracle JDK 11.0.16.1

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2022 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V11.1
サーバ OS	Windows Server 2022
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 8 u331, Oracle JDK 11.0.16.1

[LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2022 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V11.1
サーバ OS	Windows Server 2022
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 8 u331, Oracle JDK 11.0.16.1

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 10 version 21H2
Web ブラウザ	Edge(Chromium ベース版) / Edge(Chromium ベース版)IE モード
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ(JavaSE, JavaEE)	Oracle JDK 8 u331, Java EE 7

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.4 での変更点

(1) REST 通信機能の追加

クライアントとのデータのやり取りに REST 通信を利用できるようにフレームワークのクラス、サンプルおよびドキュメントの追加

- ページデータ保持タイプ

既存の要求パターンを利用した処理の後、サーバ側に処理結果(表示データ)を保持し、次画面(枠)表示後、処理結果内容を、REST 通信を利用して取得する方式

- 汎用タイプ

REST インタフェースを用意し、URI を指定して既存のアプリケーションクラスにアクセス、処理を実行・処理結果を取得する方式

(2) フレームワークライブラリを Oracle JDK 11, JavaEE 7 でビルド

全環境で使用するフレームワークライブラリを長期サポートバージョンである Oracle JDK 11, JavaEE7 でビルド

ダウンロードパターンでのダウンロードファイル名に対して文字コードや URL エンコードを用いた指定が出来る機能を追加

(3) 動作確認環境の変更

動作確認環境の組み合わせは以下の通り。

[EJB 版]

Web サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
AP サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 11.0.11

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2019 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.4
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 11.0.11

[LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2019 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.4
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 11.0.11

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 10 version 20H2
Web ブラウザ	Edge(Chromium ベース版) / Edge(Chromium ベース版)IE モード
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ(JavaSE, JavaEE)	Oracle JDK 11.0.11、Java EE 7

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.21 での変更点

(1) フレームワークライブラリを Oracle JDK 8, JavaEE 7 でビルド

全環境で使用するフレームワークライブラリを長期サポートバージョンである Oracle JDK 8, JavaEE7 でビルド

JDK のサマータイムに関する仕様変更にも対応

(2) Edge(Blink 版)に対応

ジェネレータで生成出来るアプリケーションが Edge(Blink 版)に対応。それに伴い、製品に含まれているサンプルアプリケーションをこれまでの IE 版から Edge(Blink 版)のものに変更

(3) 動作確認環境の変更

動作確認環境の組み合わせは以下の通り。

[EJB 版]

Web サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
AP サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 8 u271

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2019 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.31
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 8 u271

[LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2019 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.31
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Oracle JDK 8 u271

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 10 version 1909
Web ブラウザ	Edge(Blink 版) / Internet Explorer 11
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ (JavaSE, JavaEE)	Oracle JDK 8 u271、Java EE 7

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.3 での変更点

(1) フレームワークライブラリを Oracle JDK 11, JavaEE7 でビルドしたものに統一

全環境で使用するフレームワークライブラリを長期サポートバージョンである Oracle JDK 11, JavaEE7 でビルドしたものに統一

Oracle WebLogic Server が Oracle JDK 11 をサポートしたことにより、Oracle JDK 8 でビルドしていたフレームワークライブラリを削除

JDK のサマータイムに関する仕様変更に対応

(2) 自動生成ツール(OME ジェネレータ)を Oracle JDK 11 でビルド

自動生成ツール(OME ジェネレータ)のライブラリを Oracle JDK 11 でビルドし、動作環境として

Oracle JDK 11 に対応

(3) 動作確認環境の変更

動作確認環境の組み合わせは以下の通り。

[EJB 版]

Web サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
AP サーバ	WebLogic Server 14c (14.1.1)
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0)
JavaSE	Oracle JDK 11.0.6

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2019 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.3
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0)
JavaSE	Oracle JDK 11.0.6

[LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2019 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.3
サーバ OS	Windows Server 2019
DB サーバ	Oracle Database 19c (19.3.0)
JavaSE	Oracle JDK 11.0.6

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 10 version 1809
Web ブラウザ	Internet Explorer 11 / Edge
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ (JavaSE, JavaEE)	Oracle JDK 11.0.6、Java EE 7

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.2 での変更点

(1) JavaSE11, JavaEE7 でビルドしたフレームワークライブラリを追加

長期サポートバージョンである JavaSE11 と JavaEE7 でビルドしたフレームワークライブラリ (Ome.jar, OmeServlet.jar) を追加した。

(2) 動作確認環境の変更

動作確認環境の組み合わせは以下の通り。

[EJB 版]

Web サーバ	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.3)
AP サーバ	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.3)
サーバ OS	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 18c (18.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Java SE 8 Update 212
OME フレームワークライブラリ	Java SE 8 でビルドした Ome.jar, OmeServlet.jar (OME / EF / FI / Lib 直下のライブラリ)

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2016 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.2
サーバ OS	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 18c (18.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Java SE 11.0.3
OME フレームワークライブラリ	Java SE 11 でビルドした Ome.jar, OmeServlet.jar (OME / EF / FI / Lib / Java11 内のライブラリ)

[LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2016 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.2
サーバ OS	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 18c (18.3.0) Standard Edition 2
JavaSE	Java SE 11.0.3
OME フレームワークライブラリ	Java SE 11 でビルドした Ome.jar, OmeServlet.jar (OME / EF / FI / Lib / Java11 内のライブラリ)

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 10 version 1809
Web ブラウザ	Internet Explorer 11 / Edge
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ (JavaSE, JavaEE)	(OME / EF / FI / Lib 直下のライブラリ) Java SE 8 Update 121、Java EE 6 (OME / EF / FI / Lib / Java11 内のライブラリ) Java SE 11.0.3、Java EE 7

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.1 での変更点

(1) Edge 環境用のジェネレータテンプレートを追加

Edge ブラウザ向けのアプリケーションを生成するためのジェネレータテンプレートを追加した。

(2) 動作確認環境の変更

動作確認環境の組み合わせは以下の通り。

[EJB 版]

Web サーバ	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.3)
AP サーバ	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.3)
サーバ OS	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 12c Release 2 (12.2.0.1.0) Standard Edition(SE2)
JavaSE	Java SE 8 Update 152

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2016 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.2
サーバ OS	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 12c Release 2 (12.2.0.1.0) Standard Edition(SE2)
JavaSE	Java SE 11.0.2

[LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2016 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V10.2
サーバ OS	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 12c Release 2 (12.2.0.1.0) Standard Edition(SE2)
JavaSE	Java SE 11.0.2

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 10 version 1709
Web ブラウザ	Internet Explorer 11 / Edge
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ (JavaSE, JavaEE)	Java SE 8 Update 121、Java EE 6

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.6.0 での変更点

(1) Java の仕様変更への対応

使用する Java のバージョン変更(JavaSE 8)に伴い、OME ジェネレータで使用する XML パーサを変更。それにより XSLT の解釈が変更になったためジェネレータテンプレートの更新を行った。

(2) 動作確認環境の変更

動作確認環境の組み合わせは以下の通り。

[EJB 版・EJB 版(Struts 利用)]

Web サーバ	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.2)	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.3)
AP サーバ	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.2)	WebLogic Server 12c R2 (12.2.1.3)
サーバ OS	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 12c Release 1 (12.1.0.2.0) Standard Edition(SE2)	Oracle Database 12c Release 2 (12.2.0.1.0) Standard Edition(SE2)
JavaSE	Java SE 8 Update 121	Java SE 8 Update 152

Web サーバ	Internet Information Services 8.5 (Windows Server 2012 R2 標準)	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2016 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V9.4 (WebOTX 9.40.00.03 のパッチ適用)	WebOTX Application Server Express V10.1
サーバ OS	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 12c Release 1 (12.1.0.2.0) Standard Edition(SE2)	Oracle Database 12c Release 2 (12.2.0.1.0) Standard Edition(SE2)
JavaSE	Java SE 8 Update 121	Java SE 8 Update 152

[LW 版]

Web サーバ	Internet Information Services 8.5(Windows Server 2012 R2 標準)	Internet Information Services 10.0 (Windows Server 2016 標準)
AP サーバ	WebOTX Application Server Express V9.4 (WebOTX 9.40.00.03 のパッチ適用)	WebOTX Application Server Express V10.1
サーバ OS	Windows Server 2012 R2	Windows Server 2016
DB サーバ	Oracle Database 12c Release1(12.1.0.2.0)Standard Edition(SE2)	Oracle Database 12c Release 2 (12.2.0.1.0) Standard Edition(SE2)
JavaSE	Java SE 8 Update 121	Java SE 8 Update 152

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 10 version 1607 / 1709
Web ブラウザ	Internet Explorer 11
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ(JavaSE, JavaEE)	Java SE 8 Update 121、Java EE 6

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.5.0 での変更点

(1)UI カスタマイズ機能の追加

OME の標準的なアプリケーションの UI をカスタマイズして、使いやすいアプリケーションを開発するための部品、サンプルおよびドキュメントを追加

- ・階層構造のメニュー

メニュー構造を階層的に定義が出来、マウスクリックによるメニュー項目の段階的な表示・非表示切り替えを可能にするサンプル、および部品

- ・表示項目カスタマイズ

画面を構成する項目ごとに利用者の好みに応じた表示・非表示の設定が出来、その表示・非表示を利用者自身によって設定出来るサンプル、および部品

- ・一覧のソート順切り替え

一覧画面のデータ表示順の自由な設定が出来、その表示順を利用者自身によって設定出来るサンプル、および部品

- ・カスタマイズ可能な個人メニュー

よく使うメニューとそうでないメニューなど、メニューの優先度の変更が出来、その優先度を利用者自身によって設定出来るサンプル、および部品

(2)Java の仕様変更への対応

jp.co.nec.ome.servlet.OmHttpServletRequest クラスに、J2EE 1.4 以降に追加されたメソッドを追加しました。

また、ジェネレータによって生成されるプログラム中の Map や List に、そこに格納されるクラスを特定するためのジェネリックスを記述しました。

(3)動作確認環境の変更

動作確認環境は以下の通り。最新の動作確認環境は製品サイトを参照してください。

[WebOTX]

Web サーバ	Apache httpd 2.2.24
AP サーバ	WebOTX V9.2(64bit)
サーバ OS	Windows Server 2012
DB サーバ	Oracle Database 11g Release 2(11.2.0.1.0)(64bit)
JavaSE	JavaSE 7 Update 25

[WebLogic Server]

Web サーバ	Oracle WebLogic Server 12c(12.1.2)(64bit)
AP サーバ	Oracle WebLogic Server 12c(12.1.2)(64bit)
サーバ OS	Windows Server 2012
DB サーバ	Oracle Database 11g Release 2(11.2.0.1.0)(64bit)
JavaSE	JavaSE 7 Update 25

[共通(クライアント他)]

クライアント OS	Windows 7(64bit)
Web ブラウザ	Internet Explorer 10
フレームワークコンパイル時 使用ライブラリ (JavaSE, JavaEE)	JavaSE 7 Update 25 JavaEE 6

(4)その他の変更点

- Struts、JavaFX、OracleApplicationServer、JRun を利用もしくは対応したモジュール、サンプルおよびドキュメントを削除
- OmDefaultDAOForOracle クラスで、null チェック後、RuntimeException のスロー漏れを修正。
- OmDefaultDatabase クラスの getCatalogs()メソッドと getSchemas()メソッド内で ResultSet クラスの close 漏れを修正。
- OmFilePart クラスの getFileName()メソッドで、パス区切り文字のない場合、null ではなくパス文字列そのままを返却するように修正。
- OmPreparedQuery クラスで ResultSet の初期化処理時に、SQLException が発生した場合、無視して処理を継続するように修正。
- Java の仕様変更に対応し BigDecimal クラスの toString()メソッドを使用している箇所を toPlainString()メソッドに変更。
- ダウンロードファイル名を指定する際の文字コードを OS デフォルトから'MS932'に変更。
- 順次一覧詳細表示パターンにおいて、検索時に存在した区域サイズを超えた部分のレコードが削除された場合、一覧画面のページ送り時に表示不正となる問題に対処。
- LW 版の非同期のパターンで、サーブレットにてデータベースコネクションを生成しなかった場合でもエラーとせず、処理を継続するように変更。
- HttpServletResponse のヘッダや次画面遷移するためのディスパッチャーを取得する際の引数に制御コードが含まれていた場合、あらかじめエラーとして処理を中断するように修正
- フレームワーク内で Class クラスの getMethod()メソッドや Method クラスの invoke()メソッドで第 2 引数が明示的に null である場合、引数を指定しない(第 1 引数のみ指定)ように変更。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.9 での変更点

(1) リッチインターネットアプリケーションへの対応強化

一覧メンテナンス／単一レコードの実用サンプルアプリケーション(Gb01)に、Adobe AIR を利用したクライアントのデスクトップアプリケーションの実用サンプルを追加しました。

また、Adobe AIR の実用サンプル追加に伴い、RIA(リッチインターネットアプリケーション)の実用サンプルを動作確認しやすいように、これまで BPEL を利用した実用サンプルだけだった JavaFX のサンプルに一覧メンテナンス／単一レコードの実用サンプルアプリケーション(Gb01)を追加し、RIA の実用サンプルをひとつにまとめました。

(2) 一覧メンテナンス／ヘッダ明細パターン(DAO)の追加

一覧メンテナンス／ヘッダ明細パターンの処理を行うジェネレータテンプレートを追加しました。これにより、DAO を利用しているシステムでも一覧メンテナンス／ヘッダ明細のアプリケーションを自動作成することが可能となります。

(3) データベースからメッセージデータを取得する実用サンプルアプリケーションの追加

メッセージデータのメンテナンス性を高めるためにアプリケーションに表示するメッセージを固定的にソースに埋め込むのではなく動的に取得して表示する方法を紹介する実用サンプルアプリケーションを追加しました。

(4) ブラウザのキャッシュを利用せずに前画面に戻る実用サンプルアプリケーションの追加

前画面に戻る際に、ブラウザのキャッシュ機能を利用せずにサーバの処理を介しての画面遷移を行う方法を紹介する実用サンプルアプリケーションを追加しました。

(5) 環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ DB サーバ(WebOTX、JRun の動作確認環境)

Oracle Database 10g(10.2.0.1.0) → Oracle Database 11g(11.1.0)

- ・ AP サーバ

WebOTX Application Server V7.1 Standard-J Edition →

WebOTX Application Server V8.1 Standard-J Edition

WebOTX Application Server V7.1 Web Edition → WebOTX Application Server V8.1 Web Edition

- ・ JDK(WebOTX 動作確認環境)

JDK5.0 Update14 → JDK6.0 Update7

- ・ JDK(JRun 動作確認環境)

JDK5.0 Update14 → JDK5.0 Update16

(6) その他の変更点

- ・ WebOTX バージョンアップに伴う仕様変更により、WebOTX のアプリケーションの画面ファイル(inc ファイル)にジェネリックスを付与して生成するように変更

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.8 での変更点

(1)一覧メンテナンス／ヘッダ明細パターン追加

一覧メンテナンスパターンにヘッダ明細形式のレコードをメンテナンスするアプリケーションパターンを追加しました。OME 製品に含まれるサンプルへの追加のほか、OME ジェネレータでも生成可能になりました。(DAO を利用したアプリケーションは除く)

(2)JavaFX

JavaFX で作成したクライアントサンプルアプリケーションを追加しました。BPEL 連携 Web サービスサンプルを呼び出すクライアントサンプルアプリケーションを JavaFX で記述し、そのサンプルソースコードを提供しています。

(3)環境の変更

動作確認環境及びフレームワークのコンパイル環境を以下のように変更しました。

- AP サーバ

BEA WebLogic Server 10.0J → BEA WebLogic Server 10.0J MP1

WebOTX V6.5 Standard-J Edition → WebOTX Application Server V7.1 Standard-J Edition

WebOTX V6.5 Web Edition → WebOTX Application Server V7.1 Web Edition

JRun Server 4.0(jrun-40-win-ja.exe + updater 6 適用)

→ JRun Server 4.0(jrun-40-win-ja.exe + updater 7 適用)

- JDK(フレームワークのコンパイル)

JDK 1.4.2_15 及び JDK 5.0 Update 5 → JDK 5.0 Update 5

- JDK(WebOTX 動作確認環境)

JDK 5.0 Update 12 → JDK 5.0 Update 14

- JDK(JRun 動作確認環境)

JDK 1.4.2_15 → JDK 5.0 Update 14

- クライアント OS

Windows 2000 Professional 及び Windows XP → Windows XP

- Web ブラウザ

Internet Explorer 6.0 及び 7.0 → Internet Explorer 7.0

(4)その他の変更点

- Java5 対応のためジェネレータで生成される非 WebOTX のアプリケーションの画面ファイル(inc ファイル)をジェネリックスを付与して生成するように変更

- OmCsvFileReader クラスの BOM 付 UTF-8 コードへの対応

- システムトレースログのログ出力ポイントの変更・追加(アプリケーション基底クラス)

- サンプルのプロパティファイルからチュナブルログ設定の削除及びサンプルからチュナブルログ用の設定ファイルの削除

- ジェネレータテンプレートでの BigDecimal 型設定の際の不具合修正

- スクリーンフローパターンのヘッダ明細のサンプルの不具合修正

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.7 での変更点

(1)Ajax 対応

Javascript の非同期通信を利用した Ajax とその技術を利用したサンプルアプリケーションを追加しました。

(2)JIS2004 対応機能強化

JIS2004 で追加された文字を検出する機能を追加したアプリケーションを、ジェネレータで生成できるようにしました。

(3)環境の変更

動作確認環境及びフレームワークのコンパイル環境を以下のように変更しました。

- AP サーバ

BEA WebLogic Server 9.1/9.2 → BEA WebLogic Server 10.0J

WebOTX V6.4 Standard-J Edition → WebOTX V6.5 Standard-J Edition

WebOTX V6.4 Web Edition → WebOTX V6.5 Web Edition

- JDK(フレームワークのコンパイル)

JDK 1.4.2_12 → JDK 1.4.2_15 及び JDK 5.0 Update 5

- JDK(OME ジェネレータ動作確認環境)

JDK 5.0 Update 5

- JDK(WebOTX 動作確認環境)

JDK 1.4.2_12 → JDK 5.0 Update 12

- JDK(JRun 動作確認環境)

JDK 1.4.2_12 → JDK 1.4.2_15

※WebLogic Server, Oracle Application Server については、それぞれ同梱している JDK(Weblogic Server は JDK 5.0 Update 6、Oracle Application Server は JDK 5.0 Update 5)を利用

(4)その他の変更点

- WebLogic Server、Oracle Application Server、WebOTX で使用する JDK が 5.0 系になったのに伴い、フレームワークを JDK 5.0 系でコンパイルして提供(但し、JRun 上の動作確認では JDK 1.4 系を使用するため、Ome.jar、OmeServlet.jar に関しては JDK 1.4 系でコンパイルしたライブラリを併せて提供)
- WebLogic Server 9.2 MP1 及び WebLogic Server 10 上での絞り込みウインドウの動作の対応
- ジェネレータテンプレートのカスタマイズ方法を解説したドキュメントを追加

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.6 での変更点

(1)「Java 開発ツール」のバンドル

OME/EF 上での開発のみならず一般的な Java 環境で利用可能なツール集である「Java」開発ツールがバンドルされました。

※「Java 開発ツール」は OME/EF 製品の一部ではなく、OME/EF 製品とは別のツール集として無償で提供されるものです。そのため「Java 開発ツール」は保守契約の対象外とさせていただきますのでご了承ください。

(2)JIS2004 文字コード対策用差分ライブラリの提供

入力された文字列などに JIS2004 追加文字などのシフト JIS で表現できない文字や&H1234;のような形式の数値参照文字列が含まれているかどうかをチェックしたり、それらを指定の任意の文字に置き換えることのできる部品を含む差分ライブラリを用意しました。

この差分ライブラリをクラスパスの設定で Ome.jar より前に指定して OmStringFieldAttribute クラスを上書きすることにより、既存のアプリケーションを変更することなく、JIS2004 追加文字などを指定した任意の文字に自動的に置き換えることができますようになります。

※OME のフレームワークライブラリ、OME ジェネレータ、ジェネレータテンプレートは Ver.4.5 から一切変更していません。

※Java 開発ツールの利用についての詳細は、「Java 開発ツール」ディレクトリの「解説書」内の各ドキュメントを参照してください。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.5 での変更点

(1)Web サービス・BPEL 対応

WebLogic Server 9.1 及び Oracle Application Server 10g(10.1.3.0.0)に対応した標準的な Web サービスのアプリケーションのテンプレートモジュール、及び WebLogic Server 9.1、Oracle Application Server 10g で動作可能なサンプル及びそれらを説明したドキュメントを提供します。

また、BPEL 連携させた Web サービスアプリケーションを Oracle BPEL Process Manager で動作させるサンプル及びそれらを説明したドキュメントを提供します。

(2)環境の変更

動作確認環境及びフレームワークのコンパイル環境を以下のように変更しました。

・ AP サーバ

BEA WebLogic Server 9.1 → BEA WebLogic Server 9.1/9.2

Oracle Application Server 10g(10.1.2.0.0) → Oracle Application Server 10g(10.1.3.0.0)

ActiveGlobe WebOTX V6.3 Standard-J Edition(パッチ適用) → ActiveGlobe WebOTX V6.4 Standard-J Edition

ActiveGlobe WebOTX V6.3 Web Edition(パッチ適用) → ActiveGlobe WebOTX V6.4 Web Edition

JRun Server 4.0(jrun-40-win-ja.exe) → JRun Server 4.0(jrun-40-win-ja.exe + updater 6 適用)

・ Web サーバ(LW 版のみ)

Microsoft Internet Information Services 5.0 → Microsoft Internet Information Services 6.0

・ DB サーバ

Oracle Database 10g(10.1.0.2.0) → Oracle Database 10g(10.2.0.1.0)

・ OS(LW 版のみ)

Windows 2000 Server → Windows Server 2003 Enterprise Edition

・ JDK(フレームワークのコンパイル、OME ジェネレータ及び WebOTX,JRun 動作確認環境)

JDK 1.4.2_11 → JDK 1.4.2_12

(3)その他の変更点

- ・ 一覧詳細表示・一覧メンテナンスパターンで入力データリスト・入力データマップ存在時(具体的には一覧画面から詳細画面(入力画面や確認画面等)への遷移時)にクライアントからのリクエストの情報をアプリケーションクラスへ渡す事が可能になりました。
- ・ ダウンロードパターンで、クライアントへファイルダウンロード処理中に **IOException** が発生した場合、これまでのデフォルトのダウンロードパターンでは必ずサーバ側で作ったファイルは残す仕様でしたが、残すかどうか設定できるようになりました。
- ・ ジェネレータで生成するメンテナンス・データ管理・一覧メンテナンスパターンのアプリケーションでリビジョンエラーが発生した場合の画面に表示されるボタン及び画面遷移方法を変更しました。
- ・ フレームワーク内のシステムトレースログの出力ポイント(**DEBUG** レベル)を追加しました。
- ・ フレームワーク内のシステムトレースログのオブジェクトの取得方法を変更し、フレームワークとフレームワークのクラスを継承したクラスとのログ出力の切り分けを行えるようになりました。
- ・ ジェネレータで生成するアプリケーションは、これまで **OmLog** インタフェース系のログを使用していましたが、システムトレースログ系のログを使用するように変更しました。

- ダウンロード・アップロードパターンでダウンロード・アップロードするファイルのパスの妥当性のチェック及び制御コードのチェックを追加しました。
- ジェネレータで生成するアプリケーションのOWNコーディング保護領域を変更しました。
- データベースコネクションをクローズ及びコネクションプールに返却する際に、使用されたクエリをフレームワーク内で自動的にクローズする処理を追加しました。
- ジェネレータで生成する定型画面のアプリケーションで、ボタンがイメージの場合の ALT 属性の取得方法に不具合があったため修正しました。
- OME 製品の旧バージョンのドキュメントのうち、ミドルウェアの環境設定手順がバージョンアップなどにより劇的に異なるドキュメントを提供することになりました。
- Struts のバリデータすり抜けの脆弱性を回避する機能を追加しました。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.4 での変更点

(1) NEC 製アプリケーションサーバ ActiveGlobe WebOTX に対応

NEC のアプリケーションサーバ ActiveGlobe WebOTX V6.3 に対応したテンプレートモジュール、およびサンプルを提供します。

詳細については、製品に含まれる HTML ドキュメント「WebOTX 上で動作させるには」をご参照ください。

(2) 動作確認環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ AP サーバ BEA WebLogic Server 9.1
- ・ J2SE j2sdk-1_4_2_11-windows-i586-p.exe

(3) スクリーンフロー定義のメモリキャッシング機能追加

EJB 版・LW 版のスクリーンフローパターン及び EJB 版 Struts 利用におけるスクリーンフローにおいて、メモリキャッシング機能を追加しました。

また、この機能について関連ドキュメントに説明を追加しました。

(4) NEC ソフト社製 帳票ツール「らくらくふお〜む」に対応

NEC ソフト社製の帳票ツール「らくらくふお〜む」を使用するサンプルとドキュメントを提供します。

(5) オウンコードカウンターを追加

OME ジェネレータで生成されたソースファイルに追加したオウンコードの行数をカウントするツール、およびその使用方法を説明したドキュメントを提供します。

(6) OME の各種設定における相対パス指定機能の追加

OME のプロパティやサーブレット初期化パラメータにおけるファイルやディレクトリ指定の設定について、相対パス指定を可能にする機能を追加しました。

(7) その他変更点

- ・OmDatabaseConnectionWrapper クラスの静的なフィールド及びメソッドを、動的に変更しました。
- ・LW 版において、OME プロパティ「ome.UseDatabaseConnection」を false に設定すると、OME のデータベース接続プールの作成を行わないようになりました。
- ・順次一覧詳細表示パターンが個別に一覧情報の保持・取得をするようになりました。
- ・DAO 部品において、プリミティブ型を検索条件にして Where 句可変機能を使用した場合に発生する不具合を修正しました。
- ・OmUploadRequestHelper クラスにおいて、フィールドとメソッド変数の名称が重複していた点を修正。
- ・OmDefaultDownloadHelper クラスにおいて、POST パラメータによるダウンロード設定取得のタイミングを変更。

- ・ **OmDefaultDownloadHelper** クラスにおいて、アプリケーションクラスにおけるダウンロードのファイル削除設定によって、スクリーンフロー定義ファイルや **POST** パラメータによるファイル削除設定が無視されていた点を修正。
- ・ **OME** ジェネレータにおいて、生成するファイルの文字コードを指定できるようになりました。
- ・ **OME** ジェネレータにおいて、ライセンスファイルのチェックを行うようになりました。
- ・ **EJB** 版 **Struts** 利用における認証サンプルクラスにおいて、セッションの取得方法の無駄を無くしました。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.3a での変更点

(1) Oracle 社製アプリケーションサーバ Oracle Application Server に対応

Oracle のアプリケーションサーバ Oracle Application Server 10g(以下 OAS)に対応したサンプル、および OME ジェネレータテンプレートを提供します。

また、データベースは Oracle10g にて動作確認を行っています。

詳細については、製品に含まれる HTML ドキュメント「Oracle Application Server 上で動作させるには」をご参照ください。

(2) 動作確認環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ J2SE j2sdk-1_4_2_08-windows-i586-p.exe
- ・ AP サーバ BEA WebLogic Server 8.1 sp5

(3) OME サンプルの構成・配備例の変更

従来、展開形式にて OME のサンプルを配備するように解説を行っておりましたが、このバージョンよりアーカイブ形式(.war や.ear)で配備するように構成及び配備方法の例を変更しました。

そのため、サンプルのパス設定や OME サンプルインストール・環境設定ガイドでは、アーカイブ形式となることを前提として設定および解説をしています。

(4) OME ジェネレータテンプレート及びサンプルからデータベースの TIMESTAMP カラムの削除

OME ジェネレータテンプレート及びサンプルにおいて、デフォルトで使用していたデータベースの TIMESTAMP カラムを削除しました。

そのため、OME ジェネレータを使用して生成したアプリケーションには、TIMESTAMP カラムの実装がなくなりました。

(5) ドキュメントの新規追加

- ・ OME サンプルインストール・環境設定ガイド(WebLogic Server 対応版)

(6) その他変更点

- ・ OME サンプルインストール・環境設定ガイド(EJB 版)、OME サンプルインストール・環境設定ガイド(Struts 版)を削除し、新規ドキュメントの OME サンプルインストール・環境設定ガイド(WebLogic Server 対応版)に統一。

- ・ OmBaseAction におけるアプリケーションクラス及び EJB の呼び出しにおいて、OmRemoteLogicException 発生時のログの出力レベルが“error”となっていたのを“warn”に変更。

- ・ OmAbstractRequestPattern、OmControlServlet、OmRequestProcessor、OmBaseAction の displayRedirectPage()メソッドにおいて、RequestDispatcher オブジェクトを取得する際の実装を変更。

- ・ OmDefaultXMLResponsePlugin、OmDefaultXMLResponsePluginForStruts において、XML レスポンス送信時に出力ストリームをフラッシュするように実装。

- ・ EJB 版・Struts 版の Flash サンプルの文字コード設定を Shift_JIS から UTF-8 に変更。
- ・ EJB 版・Struts 版の Flex サンプル.mxml ファイルの文字コード設定を Shift_JIS から UTF-8 に、.as ファイルの文字コードを Unicode に変更。
- ・ Struts 版の非同期サンプルにおいて、Struts の<html:form>タグの属性が “onSubmit” となっていた点を “onsubmit” に修正。
- ・ OmRequestPluginProcessor における Logger インスタンスの取得方法が、他のクラスと異なったため実装を統一。
- ・ OME サンプルにおける EJB の JNDI 名の設定を、“.”(ピリオド)区切りから”/”(スラッシュ)区切りに変更。
- ・ OmControlServlet クラスの定数 ATTRIBUTE_KEY_EXCEPTION の説明文誤りを修正。
- ・ メンテナンスパターン及びデータ管理パターンのヘッダ明細パターンテンプレートにおいて、明細データ登録・修正時の重複チェックの実装で、プライマリキーが日付データの場合に Null チェックを追加。
- ・ JSP のデザイン部とスクリプト部の分離機能における JSP の合成ツールについて、システム共通テンプレートファイルが指定されない場合に、デフォルトのシステム共通テンプレートファイルを読み込むように実装した。
- ・ EJB 版 Struts 利用の OmDefaultUploadHelper、OmDefaultDownloadHelper クラスの getExtension()メソッドにおいて、引数の null チェックを追加。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.3 での変更点

(1)動作確認環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ DB Oracle 9.2.0 → Oracle 10g

(2)表示言語切り替えジェネレータテンプレートの追加

JSP に表示言語切り替え部品を利用した Web アプリケーションを生成する EJB 版・LW 版ジェネレータテンプレート（従来の EJB 版・LW 版の DAO 部品利用ジェネレータテンプレート OmeTemplate-DAO.jar に包含）を提供します。

(3)EJB 版(Struts 利用)の機能強化

EJB 版(Struts 利用)について、以下の機能強化やサンプル、ドキュメントを追加しました。

- ・ 非同期アプリケーション実行機能の追加、及びその機能を利用したサンプルの提供
- ・ 絞り込みウィンドウ機能のスケルトンの追加、及びそれを利用したサンプルの追加
- ・ スクリーンフロー定義ファイルの優先適用、及び共通化機能の追加
- ・ ジェネレータテンプレートに汎用/登録/単一レコードパターンを追加
- ・ 順次一覧詳細表示パターンのサンプルを追加

(4)JSP におけるデザイン部とスクリプト部の分離

JSP のデザイン部とスクリプト部がそれぞれ別々のファイルで出力されるジェネレータテンプレートと、デザイン部とスクリプト部を統合し JSP を生成するツールを提供します。また解説ドキュメントについても提供します。

(5)アプリケーションクラスのリトライ機能の追加

EJB 版 Struts 利用の全般において、DB のデッドロック検出時のアプリケーション実行リトライ機能を追加しました。

この機能を用いることで、DB におけるデッドロック発生時のリトライなどに利用できます。

(EJB 版及び LW 版のスクリーンフローパターンではすでにリトライ機能が実装されています。)

(6)Cookie 登録設定の追加

クライアントへのレスポンス時に Cookie を設定するサーブレット初期化パラメータを追加しました。

この機能を用いることで、Cookie を利用した負荷分散を行う場合などに利用できます。

(7)OME ジェネレータのプロジェクト固有項目対応

OME ジェネレータに、プロジェクト固有の項目を追加できる領域を追加しました。

また、その説明を OME ジェネレータ操作説明書に追加しました。

(8)Flex 対応

Flex クライアントと OME のアプリケーションとの連携を実現しました。
その連携を行うサンプルと環境設定のドキュメントを提供します。

(9)帳票ソリューション対応

OME 上で様々な帳票ソリューションを呼び出すための部品やサンプル、またそれらを解説したドキュメントを提供します。

(10)GdFrame 連携

OME と GdFrame の連携を実現するためのクラス、及びサンプル、連携の方法を解説したドキュメントを提供します。

(11)その他変更点

- ・ EJB 版 Struts 利用のアップロードパターン及びダウンロードパターンにおいて、ファイル名の決定の際に拡張子が反映されるように機能を強化。
- ・ EJB 版 Struts 利用のダウンロードパターンにおいて、アプリケーションクラス内からダウンロード設定を変更可能となる機能を追加。
- ・ EJB 版・LW 版の非同期ダウンロードパターンサンプルの画面遷移を変更。また、それに伴い AP 作成手順書(ダウンロードパターン)の記述についても変更。
- ・ RIA ディレクトリ、WebService ディレクトリ、画面制御ディレクトリを応用ディレクトリ内へ移動。
- ・ OmDefaultXMLResponsePlugin、OmDefaultXMLResponsePluginForStruts において、システムエラー発生時の処理にシステムトレースログ出力の実装を追加。
- ・ OmBaseAction において、入力データマップを作成するメソッド createInputDataMap()を追加。
- ・ EJB 版・EJB 版 Struts 利用のサンプルインストール手順において、JDBC 接続の取得方法を JDBC 接続プールからではなく、データソースから取得するように変更。それに伴い、OME サンプルインストール・環境設定ガイド(EJB 版)及び(Struts 対応版)の記述とシステムプロパティファイルサンプルも変更。
- ・ ジェネレータテンプレート全般において、HTML や JSP で Javascript 使用時の Http ヘッダ設定を訂正。
- ・ EJB 版・LW 版のマルチ言語対応サンプルを削除し、DAO 部品利用サンプルにおいてマルチ言語対応を追加。
- ・ EJB 版・LW 版の汎用/検索/複数レコードパターンサンプルと一覧詳細表示パターンサンプルにおける、アプリケーション固有のメッセージのメッセージコードを他のサンプルと統一。
- ・ EJB 版・LW 版・EJB 版 Struts 利用のアップロードパターンサンプル(商品マスタメンテナンス)において、日付データ復元時のフォーマットを“yyyy-MM-dd HH:mm:ss.S”から“yyyy-MM-dd”に変更。また、ダウンロードパターンサンプルの csv ファイルについても同様のフォーマットに変更。
- ・ EJB 版 Struts 利用のメンテナンスパターン/データ取得部品利用サンプルにおいて、Struts 設定ファイルにおけるデータ取得部品用フォームのプロパティ定義を削除。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.2b での変更点

(1) NEC 製アプリケーションサーバ ActiveGlobe WebOTX に対応

NEC のアプリケーションサーバ ActiveGlobe WebOTX V6.22 に対応したテンプレートモジュール、およびサンプルを提供します。

詳細については、製品に含まれる HTML ドキュメント「WebOTX 上で動作させるには」をご参照ください。

(2) その他変更点

- EJB 版の各要求パターンクラスにおいて、EJB の `remove()` メソッド呼び出しのタイミングを `finalize()` メソッドから `finish()` メソッドに変更。
- EJB 版アップロードパターンサンプルの設定および定義を変更。
- サンプル内の Javascript を使用する画面ファイルの HTTP ヘッダ定義を訂正。
- ドキュメント「OME サンプル解説文書」内のパスを訂正。
- ドキュメント「Web サービス環境設定ガイド」内の記述を訂正。
- ドキュメント「OME サンプルインストール・環境設定ガイド」内の記述を訂正。
- EJB 版・LW 版のテンプレートにおいて、一覧メンテナンス/処理区分後指定/修正主体の入力画面の `hidden` 項目に `omeFindVersionErrorPageName` パラメータを追加。
- EJB(Struts 利用)版のテンプレートにおいて、一覧詳細表示/詳細別・一覧詳細別の一覧画面におけるコンテキストルートの取得方法を、`HttpServletRequest.getContextPath()` メソッドに変更。
- EJB(Struts 利用)版のテンプレートにおいて、一覧メンテナンスの確認・結果画面 Jsp の `<html:form>` タグを `<ome:form>` タグに変更。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.2a での変更点

(1) DAO(Data Access Object)の SQL Server 対応

SQL Server に対応するための DAO クラスを追加しました。

SQL Server 対応により以下のドキュメントに SQL Server 対応に関する記述を追加しました。

- ・ クラス概要
- ・ DAO 部品使用説明書

また、SQL Server に対応する為に、Oracle 使用時と差異のあるファイル(アプリケーションクラスの Java ソース、DAO 定義ファイル、バリデーション定義ファイル)をサンプルとして提供。

(2)Flash 対応

Flash クライアントと従来の OME のアプリケーションとの連携を実現しました。

その連携を行う通信部品とサンプル、通信部品のドキュメントを提供します。

(3)画面制御サンプルの追加

JavaScript やスタイルシートを使用してブラウザ画面でのユーザインタフェースを強化したサンプルを追加しました。

(4)その他変更点

- ・ DAO クラスの `getAsciiStream()`メソッド、`getBinaryStream()`メソッドの JavaDoc コメントに誤りがあった為修正
- ・ DAO クラスのクエリーから処理結果を取得する `getXxxx()`メソッド('Xxxx'はデータ型により異なる(例: `getString()`メソッド等))で、`NoSuchMethodException` が発生時に正しく `RuntimeException` にラップしてスローしていなかった不具合を修正
- ・ DAO クラスのクエリーにデータを設定する一部の `setXxxx()`メソッド(Xxxx はデータ型により異なる(例: `setInt()`メソッド等))で、例外発生時にエラーメッセージ作成中 `NullPointerException` が発生する可能性があったため修正
- ・ DAO テンプレート中にコメント文が誤っていた為修正
- ・ EJB 版の要求パターンクラスにおいて、EJB の `remove()`メソッドを呼び出すタイミングを `finalize()`メソッド内から `finish()`メソッド内に変更。
- ・ EJB 版・LW 版のアップロードパターンサンプルにおいて、アップロードを許可する Content-Type 設定を、'application/octet-stream'のみから全ての Content-Type に変更。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.2 での変更点

(1)動作確認環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ OS Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (EJB 版 ※Struts 利用も含む)
 Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 4 (LW 版)
- ・ J2SE j2sdk-1_4_2_05-windows-i586-p.exe
- ・ AP サーバ BEA WebLogic Server 8.1 sp4

(2) DAO(Data Access Object)への対応

DAO 対応の部品として以下のパッケージに DAO 部品クラスを追加しました。

`jp.co.nec.ome.utility.dao`

この DAO 部品に関する説明を記述したドキュメント『DAO 部品使用説明書』を追加し、DAO 部品のクラスや設定に関する説明を以下のドキュメントに追加しました。

- ・ クラス概要
- ・ OME ジェネレータ操作説明書
- ・ OME ジェネレータ操作説明書(Struts 版)
- ・ AP 作成手順書(全般)
- ・ OME プロパティ項目説明書
- ・ OME プロパティ項目説明書(Struts 対応版)
- ・ パラメーター一覧
- ・ パラメーター一覧(Struts 対応版)

また、これまで提供していたジェネレータのテンプレートに加え、DAO 部品を使用したアプリケーションクラスを生成する DAO 部品利用テンプレートを提供します。

OmeTemplate-DAO.jar …… **OmeTemplate.jar** で生成されるアプリケーションクラスのデータベース処理に DAO 部品を使用するテンプレート

OmeStTemplate-DAO.jar …… **OmeStTemplate.jar** で生成されるアプリケーションクラスのデータベース処理に DAO 部品を使用するテンプレート

また、この DAO 部品利用テンプレートから作成したメンテナンスパターンのサンプルを追加しました。

(3)再ジェネレート時のオウンコーディングの保護機能を追加

OME ジェネレータによる再ジェネレート時に、カスタマイズした実装部分を保護して新しく生成するソースファイルに反映する、オウンコーディングの保護機能を実装しました。

また、この機能に関する説明を『OME ジェネレータ操作説明書』に追加しました。

(4)ドキュメントの新規追加

以下のドキュメントを追加しました。

- ・ DAO 部品使用説明書

(5)その他変更点

- ・ 初期化パラメータ「RegularizePageName」によるパス解釈統一設定を追加。
- ・ Struts 版のクラス OmDateValidator と OmWriteTag におけるフォーマット解析時の Null チェックを追加。
- ・ Struts 版において画面ファイルへ処理移譲時の getRootCause()の実装を追加。
- ・ EJB 版・LW 版において getRootCause()の結果が null の場合に、その null がログに出力されて問題のエラーのログが出力されない点を修正。
- ・ Struts 版のアップロード・ダウンロード処理において、エラー発生時の返却オブジェクトの処理方法が異なる点を統一するように変更。
- ・ サーバサイド情報保持の定義ファイルで共通パラメータのタグ(グループ ID なしのパラメータタグ)が存在しない場合の Null チェックを追加。
- ・ データ取得部品において getBigDecimal()の非推奨メソッドを使用していた点を、使用しないように変更。
- ・ OmTunableTrace、OmLogManager で log4j の非推奨クラス Category を推奨されているクラス Logger に変更。
- ・ Struts 版の OmAction がスレッドセーフでない点の修正として OmAction と動作互換を保った OmBaseAction クラスを追加し、このクラスと置き換えた。OmAction は使用しなくなった。
- ・ Struts 版において、struts-config.xml のアクションマッピングの action 要素 unknown 属性が true のリクエストについては、認証処理を行わないサーブレット初期化パラメータ「NoAuthenticationForActionMappingUnknown」を追加。
- ・ Struts 版のデータ取得部品ラッパークラスと、それを使用したサンプルを追加。
- ・ OmFilePart の getExtension()メソッド内で拡張子の取得方法を、ファイルのフルパス文字列からではなくファイル名文字列からに変更。
- ・ Struts 版 OME バリデートルールファイル ome-validator-rules.xml の omeMaxScaleIf の定義でメソッド名に"If"が不足していた点を修正。
- ・ Struts 版のクラス OmDateValidator の validateDate、validateValidDate メソッドで、入力値が不正な場合に不要なスタックトレースを標準出力していた点を、出力しないように変更。
- ・ 返却オブジェクトインタフェース OmResult 及びその実装クラス OmDefaultResult に addAllResultDataList()メソッドを追加。
- ・ Struts 版テンプレートで生成された以下の画面 JSP にある Javascript によるページ指定で、コンテキスト名を取得してパス指定に追加するように実装を追加。
 - メンテナンス/(単一・複数共)/後指定/修正主体の入力画面
 - データ管理/(単一・複数共)/後指定/修正主体の入力画面
 - 一覧メンテナンス全般の条件入力画面
 - 一覧メンテナンス/(単一・複数共)/後指定/修正主体の入力画面
- ・ Struts 版テンプレートにおいて、一覧詳細表示パターン/複数の defail.jsp で<logic:iterate>要素の indexId 属性のスペルミスを修正。
- ・ Struts 版テンプレートで、一覧詳細表示/複数全般的 struts-config.xml と validation.xml におけるフォーム名の不整合を修正。
- ・ Struts 版テンプレートで、一覧詳細表示/複数/一覧詳細別パターンの不要なファイル frame.html、blank.html が生成されていた点を生成されないように設定を変更。

- **Struts** 版テンプレートで、データ管理/単一/確認画面なしの入力画面エラー表示時に項目のラベルが赤くなるようにスタイル指定の実装を追加。
- ダウンロードパターンサンプルのディスポジションタイプの設定をコメントアウトして、デフォルトの設定を使用するように変更。
- **Struts** 版サンプルにおける **JSP** 内の画像・スタイルのパス指定を相対指定から絶対指定に変更。
- **Struts** 版サンプルのアップロードパターン、ダウンロードパターン、汎用/登録パターンについて、**jsp** ファイルに **java.util** パッケージのインポート設定を追加。
- **Schema** の **createuser.sql** で使用する表領域を、「TEMP1」「USER1」ではなく「TEMP」「USERS」に変更。
- **Struts** 版サンプルの **struts-config.xml**、**Pr01struts-config.xml** に該当するアクションマッピングのパス定義が存在しない場合のデフォルト設定「/NotFoundPage」を追加。
- **OME** バリデータリファレンスで、**omeMinLength** と **omeMaxLength** のパラメータ"Encoding"の記述を修正。
- **JavaDoc** について、以下のクラスの記述を追加・修正。
 - OmBigDecimalFieldAttribute**
 - OmWriteTag**
 - OmStringValidator**
 - OmAction**
- 各ドキュメントの **PDF** ファイルを削除。
- **AP** 作成手順書(一覧詳細表示パターン)の、第3章 1.3. **JSP** で使用できる **HttpRequest** 内のオブジェクト 表を修正。
- **OME** サンプルインストール・環境設定ガイド(**EJB** 版・**Struts** 対応版)において、**OME** サンプル用データのロード操作の順序が誤っていた点の修正と、**Java Plug-in** の設定に関する記述を追加。
- **OME** サンプルインストール・環境設定ガイド(**LW** 版)において、動作環境のバージョンアップに伴い、**JRun** と **IIS** との連携設定手順を変更。

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.1 での変更点

(1)動作確認環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ J2SE j2sdk-1_4_1_05-windows-i586.exe → j2sdk-1_4_2_04-windows-i586.exe
- ・ AP サーバ BEA WebLogic Server 8.1 sp2 → BEA WebLogic Server 8.1 sp3
- ・ DB Oracle 9.0.1 → Oracle 9.2.0

(2) Struts 版の機能強化

以下のパターンのサンプルを追加しました。

- ・ 汎用パターン/単一/登録
- ・ メンテナンスパターン
- ・ データ管理パターン
- ・ 一覧詳細表示パターン
- ・ 一覧メンテナンスパターン
- ・ アップロードパターン
- ・ ダウンロードパターン

また、以下のサンプルについてはジェネレータも提供します。

- ・ メンテナンスパターン
- ・ データ管理パターン
- ・ 一覧詳細表示パターン
- ・ 一覧メンテナンスパターン

また、これらのパターンを追加する為に以下の機能を追加しました。

- ・ 画面バージョンチェック機能
- ・ POST データ(OmeActionId)の suffix 対応
- ・ 各種バリデータ

(3)マルチ言語対応機能の追加

マルチ言語対応部品及びこの部品を利用したサンプルを提供します。

(4)Web サービスジェネレータツールとそのツールを利用したサンプルの提供

EJBアプリケーションを利用する Web サービスのサンプルの提供及びそのアプリケーションを OME ジェネレータ定義ファイルを使用して生成する Web サービスジェネレータツールを提供します。

(5)ドキュメントの新規追加

以下のドキュメントを追加しました。

- AP 作成手順書(Struts 対応版データ管理パターン)
- AP 作成手順書(Struts 対応版一覧詳細表示パターン)
- AP 作成手順書(Struts 対応版一覧メンテナンスパターン)
- AP 作成手順書(Struts 対応版アップロードパターン)
- AP 作成手順書(Struts 対応版ダウンロードパターン)
- Web サービスジェネレータ説明書
- Web サービス環境設定ガイド
- マルチ言語対応部品使用説明書

(6)その他変更点

- Struts 版で使用する OME フレームワークアーカイブファイルを、Ome.jar から OmeSt.jar、OmeServlet.jar から OmeStServlet.jar に変更。
- FI フォルダ配下の Html ドキュメントに Struts 版に関する記述を追加。
- OME ジェネレータ操作説明書において、Xalan-Java2 モジュールの適用方法を変更。
- Struts 版の汎用/複数/検索パターンのジェネレータで生成したソースに、未入力チェックのバリデータを指定した場合にエラーとなる問題を修正。
- Struts 版の汎用/複数/検索パターンの結果表示の実装を Struts のタグライブラリを使用するように修正。
- OmEJBDefaultRequest、OmSessionController クラスの JavaDoc を修正
- jp.co.nec.ome.servlet パッケージ内の不要なクラス OmAuthentication、OmDefaultAuthentication を削除。
- OmCommonFileTransfer クラスの protected メソッドの宣言を public に変更
- OmStringFieldAttribute クラスに空白除去フラグを引数に指定するコンストラクタを追加。また setTrim()メソッドの JavaDoc を修正。
- OmNumberFormat クラスにおいて、引数にロケールを指定する format()メソッドを追加。
- OmDefaultEnvironment のコンストラクタでプロパティファイルの読込後、入力ストリームの close をしていない問題の修正。
- テンプレートのコメント修正。
- 一覧メンテナンス/単一レコード/処理区分後指定/表示主体の list.jsp の JavaScript で指定している存在しないファイル detail.jsp の記述を削除。
- 一覧メンテナンス/複数レコードの定型全てについて、単一レコード用の displaymessage.inc のテンプレートを指定していた点を修正。
- スクリーンフローパターンサンプル内のスペルミスを修正。
- メンテナンスパターン・データ管理パターン/ヘッダ明細において、明細にラベル表示の項目を指定すると改行されない問題を修正。
- 定型パターンの確認・結果画面ジェネレータ定義ファイルサンプルで、項目のタイプ、スタイルの記述を修正。

- ・ 定型パターンの確認・結果画面のテンプレートにおいて項目のスタイル指定の実装を修正。
- ・ 定型パターンにおける日付型データのラベル指定の際の不具合修正。
- ・ **Struts** 版メンテナンス/単一レコードのスクリーンフロー定義ファイルで画面ステートの不正を修正。
- ・ **JavaScript** の **onclick** 関数と **onkeypress** 関数で同じ関数を指定した場合に、2回処理されてしまう不具合のため、**onkeypress** 関数を空文字指定("")に修正。
- ・ **OmRequestProcessor** において、**Struts** の **MultipartRequestWrapper** クラスに対応していなかった点の修正。
- ・ **OME** サンプルインストール・環境設定ガイド(**LW** 版、ブレイクバッチ)において、**JDBC** ドライバファイル名、**JDBC** ドライバクラスの変更。
- ・ 一覧詳細表示パターン(詳細別、一覧詳細別)での **omeKeyNo** の受け渡しの際の不具合修正
- ・ **LW** 版サンプルの **web.xml** の **JDBC** ドライバクラスを変更。
- ・ ダウンロードエラー時のエラー画面の **method** 属性の設定誤りの修正

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.0a での変更点

(1) OmScreenFlowDefinitionFileAnalyzerForStruts クラスの不具合修正

OmScreenFlowDefinitionFileAnalyzerForStruts クラスの以下の不具合を修正

- ・次アプリケーション ID が設定されていた場合の処理の不具合
- ・スクリーンフロー定義ファイルパスをセッションに登録する処理の不具合

(2) 画面間共有データの削除タイミングの不具合修正

OmAction クラスで画面間データ共有機能のアプリケーションスコープの画面間共有データの削除タイミングの不具合の修正

(3) LW 版非同期パターンの不具合修正

LW 版の非同期パターンで、アプリケーションクラスの処理で使用するコネクションをクライアント側に画面を返却するスレッドがクローズしてしまう不具合の修正

(4) OmeGenerater.jar に生成するソースの整形クラスの配置漏れの対応

(5) OME サンプルインストール・環境設定ガイド(Struts 対応版).doc の記述漏れの修正

(6) OME ジェネレータ操作説明書(Struts 対応版).doc の記述漏れの修正

(7) サンプルの omestproto.properties の設定の不適切な部分の修正

(8) LW 版のサンプルの web.xml の設定の不適切な部分の修正

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.4.0 での変更点

(1) Struts 対応版の追加

コントローラ層に **Struts** のフレームワークを利用した **Struts** 対応版が追加されました。

Struts のアクションを継承した **OME** 提供のアクションクラスは、スクリーンフローの機構を実装し、また、アプリケーション基底クラスも従来のスクリーンフローパターン of アプリケーション基底クラスを継承したクラスを使用します。

サンプルには、汎用パターン・検索・複数レコードとメンテナンスパターン・単一レコードを提供し、ジェネレータも提供します。

(2) 動作確認環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ AP サーバ WebLogic Server 8.1J sp1→WebLogic Server 8.1J sp2

(3) ドキュメントの新規追加

以下のドキュメントを追加しました。

- ・ OME サンプルインストール・環境設定ガイド(Struts 対応版)
- ・ OME プロパティ項目説明書(Struts 対応版)
- ・ クラス概要(Struts 対応版)
- ・ スクリーンフロー定義ファイルタグリファレンス(Struts 対応版)
- ・ OME スクリーンフロー機能説明書(Struts 対応版)
- ・ スクリーンフロー定義ファイル作成手順書(Struts 対応版)
- ・ パラメーター一覧(Struts 対応版)
- ・ AP 作成手順書(Struts 対応版汎用パターン)
- ・ AP 作成手順書(Struts 対応版メンテナンスパターン)
- ・ OME バリデータリファレンス
- ・ OME ジェネレータ操作説明書(Struts 対応版)

(4) その他変更点

- ・ サンプルに含まれる web.xml の初期化パラメータにパラメータ名'EncodeResponseHeader'を設定
- ・ サンプルに含まれるスクリーンフローパターンのサンプル'Ts01'は、相応しくない処理が含まれており削除
- ・ FI フォルダ直下にある index.html の左フレームの表示が『OpenMeisterEnterprise®/EF-FI』となっているのを『OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤』に修正
- ・ OmDownloadRequestHelper クラス, OmMultipartRequestParser クラス, OmUploadRequestHelper クラスのデフォルトの文字エンコードが'Shift_JIS'として指定されていたため'Windows-31J'に修正。また、OmControlServlet のコメント文で'Shift_JIS'と記述されていたのを'Windows-31J'に修正。
- ・ LW 版サンプルの web.xml の初期化パラメータに本来機能しない MaxUploadException の記述が

あるため削除

- OmScreenFlowRequest クラスで使用していない定数'SESSION_KEY_SCREEN_SHARE_DATA_MAP'が残留していたため削除
- スクリーンフローパターンで、入力オブジェクトにフレームワークとして'methodName'をキーとして値を格納しているため、AP 作成手順書(スクリーンフローパターン).doc に'methodName'が予約語という旨の注意制限事項を追加
- OmXMLAnalyzer クラスで InputStream の close メソッドのコールを追加
- OmNumberFormat クラスの formatNumber メソッドが static でないためにコールできなかった現象解消のため static メソッドに修正
- OmHttpServletRequest クラスの httpRequest フィールドを private から protected に修正
- 一覧詳細パターン、一覧メンテナンスパターンのジェネレータテンプレートで検索バージョン不正チェックにおいて無駄なコーディングがあったため修正
- 一覧メンテナンスパターンの複数レコードと複数削除の結果画面で処理正常終了時に画面で表示されるメッセージが、アプリケーションクラスで設定したメッセージコードが反映されなかったが、反映されるように修正
- relation.xml の設定で定型/一覧メンテナンス/複数レコードの設定が 3 つあったので 1 つに修正
- OmeTemplate.jar 内にジェネレータ動作時に参照される environment.xml, reference.xml, relation.xml とは別にこれら 3 ファイルが格納されていたため、削除

OpenMeisterEnterprise®/EF システム基盤 Ver.3.2 での変更点

(1)要求パターンのバリエーションの追加

スクリーンフローパターン

※スクリーンフローパターンは、画面遷移情報を XML 文書として外出しし、要求パターンは、その定義されている画面遷移情報に従って画面遷移を実行します。製造者によって画面遷移情報は定義できるので、これまでより自由な画面遷移を行うアプリケーションを製造することが可能です。

(2)ファイルの拡張子の変更

OME ジェネレータで生成されるファイル及び OME に付属するサンプル又は部品のファイルのうち、JSP にインクルードされるファイルの拡張子を inc に変更しました。

(3)JSP の文字コードの変更

OME ジェネレータで生成される JSP 及び OME に付属するサンプル又は部品の JSP で使用している文字コード(charset)を、これまで”Shift_JIS”を指定していましたが、”Windows-31J”に変更しました。

(4)動作確認環境の変更

動作確認環境を以下のように変更しました。

- ・ DB Oracle8.1.7→Oracle9.0.1
- ・ AP サーバ WebLogic Server 6.10J sp2→WebLogic Server 8.1J sp1
 JRun 3.0 → JRun 4.0
- ・ J2SE j2sdk-1_3_1-win.exe→j2sdk-1_4_1_05-windows-i586.exe

(5)ドキュメントの新規追加

以下のドキュメントを追加しました。

- ・ AP 作成手順書(スクリーンフローパターン)
- ・ スクリーンフローパターン機能説明書
- ・ スクリーンフロー定義ファイル作成手順書
- ・ スクリーンフロー定義ファイルタグリファレンス

(6)その他変更点

- ・ データ取得部品説明書に、ステートメント ID,タグパラメータに’_’の使用禁止の注意書きを追加
- ・ AP 作成手順書(ダウンロードパターン)に、omeDownloadDispositionType が、ブラウザのバージョンと、omeDownloadContentType の設定によって本来の動作を行わない場合があるという旨の説明を追加
- ・ 初期化パラメータの文字コード未設定時に適用される文字コードを’Windows-31J’に変更。またそれに伴い、初期化パラメータの web.xml の文字コード設定の削除

OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.3.1 での変更点

(1)システムトレースログ機能の追加。

(2)要求パターンのバリエーションの追加。

- ・ 順次一覧詳細表示パターン

※順次一覧詳細表示パターンアプリケーションは一覧詳細表示パターンアプリケーションをカスタマイズして作成します。サンプルへのリンクが一覧詳細表示パターンアプリケーションサンプルのメニューに追加されています。(単一レコード詳細表示 – 簡易画面 – 商品一覧)

(3) OME ジェネレータで発生していた以下の不具合の修正。

- ・ OME ジェネレータで出力された HTML の Content-Script-Type が誤っていた。

(4)以下のドキュメントを新規追加。

- ・ AP 作成手順書(順次一覧詳細表示パターン)
- ・ システムトレースログ使用説明書

(5)その他変更点

- ・ OmCsvFileWriter で文字列を出力するとき、ダブルクォーテーションを出力しない設定を追加。
- ・ OmStringFormat で HTML で利用する文字列の変換対象文字としてシングルクォーテーション(')を追加。
- ・ アップロード/ダウンロードパターンで日本語のファイル名を使用できるように修正
- ・ BEA WebLogic Server 6.1 sp1 以前の文字エンコードに対応できるようマルチパートリクエストパーサを変更。

OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.3.0 での変更点

(1)要求パターンの追加。

- ・アップロードパターン
- ・ダウンロードパターン
- ・データ管理パターン

(2)ログファイル出力機構の追加。

(3)サーバサイド情報保持機能の追加。

(4)WebLogicServer6.10J sp2 対応。

- ・WebLogicServer6.10J sp2 ではデフォルトのエンコーディングが変更されているため、OME/EF-FI Ver.2.2b 以前のバージョンのOMEサンプルでは文字化けが発生する。そのため、サンプルに付属している web.xml の初期化パラメータ encode の設定を変更。

(5)OME ジェネレータテンプレートファイルの不具合を修正。

(6)以下のドキュメントを新規追加。

- ・AP 作成手順書(アップロードパターン)
- ・AP 作成手順書(ダウンロードパターン)
- ・AP 作成手順書(データ管理パターン)
- ・ログファイル出力使用説明書
- ・スタイルシート使用説明書
- ・OME プロパティ項目説明書

(7)動作確認環境を以下のように変更。

- ・DB Oracle8.1.6→Oracle8.1.7
- ・AP サーバ WebLogicServer6.10J→WebLogicServer6.10J sp2
- ・JDK jdk-1.2.2_008-win.exe→j2sdk-1_3_1-win.exe
- ・J2EE j2sdkee-1_2_1-win.exe→j2sdkee-1_3_1-win.exe
- ・ブラウザ Internet Explorer5.0→Internet Explorer5.5sp2

OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.2.2b での変更点

(1) WebLogic6.10J 対応

- ・ WebLogic6.10J に対応させるために、EJB を呼び出す JSP(HTML)に EJB のホームインタフェース名を指定するパラメータを追加(omeEJBHomeName)。また、本バージョンの OME ジェネレータで生成された JSP(HTML)ファイルにはこのパラメータが追加されるようになった。
- ・ OME のサーブレットクラスファイルの登録方法を変更。従来、OmeServlet.jar を WebLogic 起動ファイルの CLASSPATH に設定していたところを、WebLogic のサーブレットの CLASSPATH が通ったディレクトリにおくように変更。

(2) サンプルの web.xml の誤りを修正。

(3) 「共通定義ファイル」で設定したスタイルで実際の画面に反映されないものがあつた不具合の修正。

(4) OME ジェネレータで発生していた以下の不具合の修正。

- ・ OME ジェネレータ(GUI 版)で新規作成される XML と OME サンプル XML でファイル名が異なるものがあつた。
- ・ OME ジェネレータ(GUI 版)で「定型/一覧メンテナンス/単一レコード/処理区分後指定/表示主体」パターンが新規作成できなかった。

(5) 以下のドキュメントを新規追加。

- ・ ジェネレータが生成するアプリケーション仕様
- ・ カスタマイズ説明書
- ・ パラメーター一覧

(5)サンプルのデータ取得部品 EJB のトランザクションモードを Required から Supports に変更。

OpenMeisterEnterprise®/EF-FI Ver.2.2a での変更点

(1) OME ジェネレータで生成されたアプリケーションに発生していた以下の不具合の修正。

- ・ 一覧メンテナンス/複数レコードパターンのアプリケーションで「引用」「修正」「削除」を行う場合、最初のレコードのみが処理対象になっていた。
- ・ メンテナンス/ヘッダ明細パターンのアプリケーションでヘッダ部分と明細部分のテーブルがネストしていたためヘッダ部分が正常に表示されない場合があった。
- ・ 一覧メンテナンスパターンのアプリケーションで検索該当件数が表示件数と一致した場合、一覧画面の表示件数が「全件」と表示されていた。

(2) データ取得部品利用時に、環境識別子を使用しデータベースコネクションを切り替えるとエラーが発生していた不具合の修正。

(3) 「ジェネレータ定義ファイル」の「メッセージ定義ファイル」に「参照インクルード」を指定していた場合、ジェネレートに失敗する不具合の修正。

(4) 以下のドキュメントを新規追加。

- ・ OME サンプルインストール・環境設定ガイド(ブレイクバッチ)
- ・ データ取得部品説明書
- ・ 絞り込みウインドウ説明書
- ・ AP 作成手順書(ブレイクバッチパターン)